

投稿記事

思い出

神谷みち子

私は、かまにし17第26号のわが
まの顔に採り上げられた丹尾シ
ズエ園長の南蒲幼稚園に、昭和十
八年頃から二年間ほど保母を勤め
させて頂きました。

朝、自宅（大田区堤方）を出
て蒲田駅か道塚の駅（昔は駅が
有りました）迄目蒲線にて通い、
園児の家を廻りながら一軒づつ
お迎えをしながら、幼稚園に通っ
たことがなつかしく思い出され
ます。

戦争が激しくなり園長先生は
群馬の方へ、私は伊豆へ別れ別
れに成りました。

伊豆は私の叔母が居りました
ので、世話に成りました。伊豆
には幼稚園が有りませんで村の
人のお世話で小学校に代用教員
として五年間お世話に成り、結
婚を期に桐里町、其の後大城通
りに移り、主人の後を息子と二
人で機械の仕事に今でも現役で
頑張っております。生涯現役、
丹尾先生に負けずに！

多摩川大橋の歩道幅が
広がります

「投稿記事募集」

旅の思い出、身近なエピソード
など、原稿をお寄せください。

投稿要項

内容 ジャンルは問いません
文字数 四百字詰原稿用紙1枚ま
たは2枚

署名 実名あるいはペンネーム
投稿先 事務局まで
投稿の際は住所、氏名、電話番号
を明記してください。

皆様からの投稿を心よりお待ち
いたしております。お寄せいただ
いた原稿は、出来る限り掲載し
たいと思いますが、年に4回とい
う発行回数ですので、掲載できな
いこともあります。

今後とも、皆様と共に楽しい紙
面づくりをしていきたいと思いま
すので、よろしくお願いいたしま
す。



今回のわがまの顔では、型染
めの進藤 鴻さんを取り上げまし
た。一作品を仕上げるのに三カ月
以上もかかるのか、日々地道な努
力をされていることに、本当に頭
が下がる思いです。

また、わがまの顔で特集して
もらいたい人物や団体がありまし
たら、左記の事務局までお知らせ
ください。

情報紙に対するご意見やご感想、
また投稿などを事務局までお寄せ
ください。

事務局

蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七十一二一七
(三七三二) 四七八五

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29,674人
	女	27,217人
	計	56,891人
世帯	30,269世帯	

平成20年2月1日現在

編集後記

わがまの顔

型染めの 進藤 鴻さん



を染めるため広く使われるよう
になりました。

型染めという独自の領域を芸
術にまで高めたのが、人間国宝
の今は亡き芹沢銈介さんで、西
蒲田四丁目の呑川沿いに工房と
住居がありました。

進藤さんが型染めを始めたとき
かけは、散歩をしているときに
奥沢でお祭りに出会い、御神輿
を描きたいと思い、いとこで師
匠の駒坂さんに就いて学びまし
た。

一つの作品を仕上げるのにア
イディアから完成まで早くて三
カ月（冬・梅雨時は更に時間が
必要）もかかるそうです。*
パイオニアに勤務中は会社に
は型染めをしているこ
とを内緒にしていたの
で、退職の時皆に作品
を見せたらびっくりさ
れたそうです。

現在は、地元の神社
のお祭り・御神輿を中
心テーマに制作してい
ます。

これからも、頑張っ
てよりよい作品を制作

したいとおっしゃっていました。
*型染めの工程

- ①型紙作成。（和紙に柿渋を塗っ
て貼り合わせ、燻製加工しま
す。）
- ②デザインを型紙にカッター等
で彫り透かします。
- ③紗張り（彫り透かした型紙の
補強のため紗を貼ります。）
- ④型紙を別の紙や布の上にのせ、
防染用の糊を置きます。
- ⑤糊が乾いたところで天然鉱物
性顔料に大豆から作った豆汁
（こじり）を混ぜ、刷毛で染
色していきます。
- ⑥天日干しをしたあと、水洗い
して糊を落とし、整えて額装
等を行います。

（取材 山崎委員）

平成20年3月1日発行

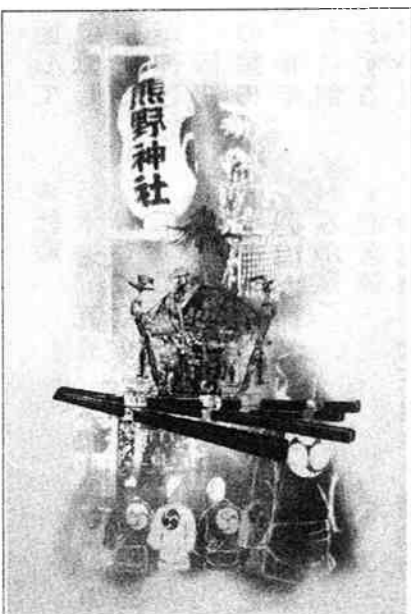
かまにし

第27号

発行 わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編集 地域情報紙編集委員会

進藤 鴻（ひろし）さんは昭和
十九年生まれの六十三歳。地元
の矢口東小学校を卒業し、二十
二歳でパイオニアに勤務しデザ
インの仕事をしていたそうです。
子供の時から絵を描くのが好き
で、現在の型染めを今から十年
前に始めました。

型染めは、日本で独自に発展
した染色技法です。十二世紀頃
には、武士の家紋の染色に型染
めが行われていたようです。ま
た、沖繩の紅型（ビンガタ）は、
特に有名です。一般化されたの
は江戸時代で、庶民の着物の柄



特集 『御園神社の由来』

今回は、大田区西蒲田七丁目管内に位置する「御園神社（石寄神社・ジャゴジ）」について取り上げます。

「蒲田駅西口」

明治5年（1872年）新橋〜横浜間の鉄道が開通してから32年後の明治37年（1904年）に蒲田駅が開設されました。当時は駅舎、改札口ともに東口のみでした。大正後期になり、女塚、御園、矢口方面の人口が急増し、住民より西口の改札口新設の請願が出され、大正11年9月に西口駅舎が開設されました。大正12年、関東大震災に前後して、大正マーケット（現都税事務所付近）や蒲田最初の百貨店、松芳（御園神社付近）が開店し、人口増加に拍車がかかりました。同年11月に目蒲線（現多摩川・目黒線）が全線開通し、昭和3年6月には池上線の全線が開通しました。

「御園神社」

*御由緒

創建年代は不詳ですが、その昔多摩川の洪水によって流れついていた猿田彦命を祀って、おしゃもじ様と称え、村民の信仰篤き崇敬神社であったと言います。明治20年までは御園村・女塚の総鎮守として八幡社が現在の蒲田駅東口の付近に鎮座していましたが、東海道線敷設のため、境内地を収用され、風致がはなはだしくそなわれたので、女塚村と御園村はそれぞれ鎮守を移転することになりました。おしゃもじ様の境内は、名のごとく、おしゃもじの形状をしていましたが、明治21年境内を広げ、御園神社と改称して現況のような鎮守様となりました。昭和20年蒲田一帯はほとんどが戦災によって焼け野原になりましたが、戦後いち早く復興しましたが、昭和35年には、現社殿と社務所が竣工し、諸々の施設が整いました。その後社務所のみ新築しました。

蒲田駅西口の大通りに面して交通の便に恵まれた所に位置しているため、社務所を利用する人が多く、いろいろな会が神社を中心に活動しています。伝統芸能として、神社ゆかりの猿田彦の舞が伝えられており、青年部を中心に、お囃子とともに例大祭での神輿渡御の先導をするなどして、祭典に奉仕しています。

氏神様としての歴史は短いですが、民間信仰として導きの神としての由緒には深いものがあります。

*御祭神

猿田彦命（さるたひこのみこと）、天宇受売命（あめのうづめのみこと）

*俗称

お杓子（しゃもじ）様と称する

*創祀 不詳

*鎮座地

大田区西蒲田七丁目40番8号
電話（三三三五）五〇九八

*官司 上野喜信

*境内敷地

一、六九八㎡（約五一五坪）

*氏子中

西蒲田七・八丁目
新蒲田一丁目

*社殿
木造、瓦葺、入母屋造（いりもやぶくり）（12坪、昭和35年竣工）

*末社

稻荷神社（境内末社、宇迦之御魂大神・うがのみたまおのみかみ）

*記念碑

頌徳碑 大正11年 蒲田村
村長 月村惣左衛門

建碑進行中、大正11年10月10日をもって蒲田村は蒲田町となった。

*鳥居

石造明神型、大正13年9月奉納 氏子中

*狛犬

石造り一对（大田区でも数少ない蹲踞型）奉納・石などの記銘はなく不明だが昭和年代の狛犬で、左の狛犬足下には子狛犬、右狛犬足下には鞠を踏んでいる。顔は獅子の特徴を持って、狛犬としては大柄であり、蹲踞のスタイルは東大寺南大門型である。



*神楽殿

木造トタン葺（12坪）昭和35年建設

*神輿庫

木造（30坪）昭和35年建設

*神輿

神社神輿大二基

*手水舎

一基、コンクリート磨出し

*神紋

左三つ巴

*社務所

鉄筋二階建て

御園神社について、新編武蔵風土記稿に左記の記載がある。

祭神 猿田彦命、天宇受売命、無格社、年貢地、御園村西の方

小林村の境にあり、この地の鎮守なり。祭神及び鎮座の年曆詳ならず、社九尺に七尺、祭禮は毎年11月朔日をもって行へり、村民の持。

近年の祭礼（本祭り）は、隔年7月下旬「本年は陰祭りとして7月19日（土）に挙行」に執り行われる予定。なお、近年は本祭りでない年は、陰祭りとして、神輿の周りに提灯をつけ宵宮として渡御している。

「縁起についての二説」

①御園神社は、もと矢口原村付近にあったものが、多摩川洪水の際、今の場所に流着して、現在地に祀る。

②御園と原村とは地続きのところから、徳川時代に於いて、両村民間に問題を起こし、遂に此社は御園のものとなった。

ともにいずれも判然としないようである。

旧記宝物と見るべき何者もないが、御園住民の氏神様である。俗称お杓子様（オシヤモジサマ）

といい、神輿渡御の際は、2枚のシヤモジをたたきながら渡御している。境内に樹齢約450年に達する松の老樹があり、遠方からの目標となり、風致上得難き名木であったが、惜しいこ

とに昭和7年11月14日の暴風で打ち倒れてしまった。

月村惣左衛門の記念碑

左記は、御園神社入り口右手にある「頌徳碑」についての内容である。

名主として、戸長として、町

村制実施以来の村長として、蒲

田村政に貢献する事四十有余年、

功績誠に偉とすべきものがある。

然るに大正五年十二月、不幸

病を得て没す。茲に於いて村民

生前の徳を慕い、同月二十三日

の村會に於いて、村葬の決議を

行い、葬儀を執行したが、なお

永久にその功績を表彰する為に、

左の人々が發起人となって、氏

の七周忌に相当する大正十一年

十一月御園神社境内に自然石の

記念碑を建設し、同

月二十二日午前十時、

令孫月村菊江子、同

二三子両嬢の手によつて華々しき除幕式を

挙行した。

「發起人氏名」

野村治朗吉

樋口林太郎

村居鉄次郎

菊地政雄



石井磯五郎 山田義一
吉岡縫之助 森 孫太郎
須山金太郎 月村 春吉
遠藤晴治 吉田 直次
遠藤信久 月村 秋次郎
月村平吉 吉岡 清次郎
西山庄太郎 須山 政太郎
須山久次郎 中村 政太郎
月村喜久蔵 渡邊 新
なお、前記發起人の外、
新田吾郎、建部運三郎、山縣外
男、安藤順作、鈴木鉄治郎、山
内鉄治郎、山岡廣次の方々が、
常務委員として熱心に尽力され
た。

記念碑に刻まれた内容は、実際にご覧頂くことをお勧め致します。

（取材 飯嶋・下山委員）